

## 所内研修④指導主事講話 「幼児期にはぐくみたい自己肯定感」

12月21日(月)に所内研修として、大城美恵子指導主事を講師に、「幼児期にはぐくみたい自己肯定感」と題して講話をいただきました。

上原所長の講話「求められている21世紀型能力」の中で語られる自己肯定感の重要性を幼稚園では、どのようにはぐくんだら、よいかと考えて、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説に基づいてお話しくれました。

自己肯定感の高い子を育てる5つのポイントは幼児期の子ども達に接することだけでなく、小学校でも中学校でも、実践できる具体的なものでした。

### 【講話の概要】

#### 1 自己肯定感とは

○自分の良いところも課題も含めて肯定できる前向きな感情

#### 2 乳幼児期の課題(文部科学省：子どもの徳育の充実に向けたあり方について報告)

- (1) 愛着の形成
- (2) 人に対する基本的信頼感の獲得
- (3) 基本的な生活習慣の形成
- (4) 十分な自己の発揮と他者の受容による**自己肯定感の獲得**
- (5) 道徳性や社会性の芽生えとなる遊びなどを通した子ども同士の体験活動の充実

#### 3 「幼稚園教育要領」の位置づけ

○人間形成の基礎として、自己肯定感をはぐくむ。

#### 4 「保幼小連携認定こども園教育・保育要領」の位置づけ

○自己肯定感を持ってはぐくまれることが可能となる環境を整備することが、社会全体の責任である。

#### 5 自己肯定感の高い子は

- 自分に自信がある
- 何事にも挑戦していく強い心を持っている
- 「折れない心」
- 心に余裕があり、人に優しく親切に接することができる
- 多くの人が集まり、支えられて生きていく方が多い傾向にある

#### 6 自己肯定感の高い子を育てるのは

- (1) どんな時でも「あなたの味方」と伝える
- (2) 小さな成功体験を積み重ね、褒めてあげる
- (3) 頑張りを認めてあげる
- (4) 子どもの話を真剣に聞いてあげる
- (5) 感謝の言葉を伝える魔法の言葉「ありがとう」

**幼少期の子どもへの接し方は、  
子どもの人生に大きく影響を与える。**

#### 7 幼稚園生活の中で

○幼児期だからこそ自己肯定感を高めるチャンスがたくさん！

### 1月の行事予定

- 1日 元旦 年始休(～3日)
- 4日 仕事始め  
// 大切な話③久高友弥
- 6日 所内研修⑦「保育参観の視点」  
// しののめ教室 書き初め
- 7日 クラブ書道⑥
- 8日 ミーティング
- 11日 成人の日(公休日)
- 12日 検証保育・検証授業(～27日)
- 14日 ミーティング
- 16日 自主講座 幼児教育④  
「絵本の世界を子育てに」  
(沖縄女子短期大学1階大教室)
- 20日 検証授業 富名腰由紀(東風平小学校)
- 21日 検証授業 久高友弥(与那原東小学校)
- 22日 検証授業 比嘉頼子(長嶺小学校)  
// ミーティング
- 27日 検証授業 波照間生子(大里中学校)
- 28日 クラブ三線③
- 29日 検証保育 上原亜矢(北丘幼稚園)  
// ミーティング  
// 自主講座 幼児教育⑤  
「表現活動」



写真1 所内研修の様子



写真2 講話中の大城指導主事

## 教育研究員の感想（研修日誌から）

幼稚園の良いところ、、、幼児の物事に対する興味関心が高まる時期に、直接的な体験ができることだと思います。特に授業などの時間に縛られることなく、思い切り遊び込めるとというのが魅力です。幼児期に自己肯定感を育むという大切な時に、かかわる幼稚園の存在の大切さを改めて実感しました。安心する・様々な物事への興味関心が広がり、自分からやろうとする幼児を育てていく為に、出来たことを言葉にして認める等、教師の援助や一人一人の幼児理解が大切です。私も子ども達とかかわって行く中で、このような援助を意識して行っています。しかし、子ども達に、より達成感や満足感を味わってもらえるように、できたことを誉めるのも大切ですが、何に対しても誉めるのではなくて、ポイントを絞って言葉かけをしていこうと思いました。言葉かけにおいても、どの部分が良かったのか伝わるように具体的に話してあげたいです。ますみ先生がおっしゃっていたように、幼児期のみならず、どの時期でも大切にしたいことだと思います。どの子にもチャンスを作ってあげたいです。（上原亜矢）

講話では「自己肯定感」を育てることがどんなに大事であるか、分かりやすく教えていただきました。自己肯定感とは「自分には、生きる価値がある。誰かに必要とされている。自分を大切に思える。」など。自己肯定感が高い子は「自分に自信があり、強い心を持ち、人に優しく、多くの人が周りに集まり、支えられて生きていく傾向にある。」とのことでした。逆に自己肯定感が低いと他人や自分をないがしろに扱ってしまうというお話を聞いて、なんとなくわかるような気がしました。幼児期にいかに自己肯定感を高めてあげることができるかが教師の役目でもあると感じました。私も現場に戻ったら、どんなに忙しくても子どもたちの話を真剣に聞いてあげたいし「ありがとう。」の言葉をいっぱい言ってあげたいし、どんな時でも、あなたの味方だよと言ってあげたいと思いました。そして、どの子もいいところ見つけて、たくさんほめてあげたいです。また、現場に戻ったら、今日学んだことを意識しながら、しっかりと児童の自己肯定感を育てていきたいと思います。（比嘉頼子）

「幼児教育にはぐくみたい自己肯定感」という題での講話でしたが、教育の中でとても大切な「自己肯定感」は小さいうちから育てていくことの大事さがわかりました。そのためには、「愛着」がキーワードです。乳児の頃から目を合わせたり、話しかけたりということをやっていくことが大切だとわかりました。そして、子供を肯定的に見るということは、一人一人がかけがえのない個性ある存在として認めるということなので、特に教師という仕事においてこのことはいつも心にもっておかななくてはいけないことだと改めて感じました。逆にしかる場合について考えてみたのですが、やはりいつもほめるばかりではなく、悪いことをしたらしからなければなりません。でも、同じしかる場合でも、いつもその子のことを見てほめて認めてあげたら、きっとその子もしかられている理由を素直に聞こうとするのではないかと感じたので、まずは子供の良いところをいくつも書けるような担任になりたいと思いました。担任に戻ったら、一人一人の良い所を書くノートを作りたくさんストックしていきたいです。（久高友弥）

「幼児期にはぐくみたい自己肯定感」について講話をいただきました。「自己肯定感」という言葉はよく聞いていたり、使っていたりしていましたが、実際にどういうものなのか大城主事の講話ではっきりと理解できました。私にとっての自己肯定感とは、迷った時、落ち込んでいる時に自分自身の背中を押してくれるもう一人の自分だと考えています。大城主事のお話の中に、自己肯定感とは、0～6歳までが土台となることや幼いうちにはぐくむことが大事ということを知り、子育ての折り返し地点にきている私は、反省することばかりです。学級の子ども達の中にも、自己肯定感の高い子もいれば、低い子もいます。その中でも、低い子が思い浮かびました。自己肯定感を高める子に育てるポイントを教わり、味方になることや誉めること、がんばりを認めてあげることなど、即実践できることだと安心しました。自己肯定感を高めることができるのは、学校や家庭の中がチャンスをたくさん抱えているということなので、教師として、また親として、子ども達の自己肯定感を高めることを意識した学級経営や子育てができるように心がけたいと思います。（富名腰由紀）

講話を聞いて、自己肯定感とは自信のある子だと、漠然と思っていましたが、それだけではなく、何事にも挑戦していく強い心を持っている。「折れない心」、心に余裕があり、人に優しく親切に接することができる、多くのひとが集まり、支えられて生きていく方が多い傾向にあると具体的に説明してもらい、子どもも大切だけど、大人の私にも必要なことだと感じました。学級担任を持つと、生徒指導する場面でもどうしても感情的になることがあるので、感情で叱るのではなく、「愛」をもってしかるという、美恵子先生の言葉にはうちあたいました。また、どんな小さいことでも努力を認めてあげることやこどもの目をみて、アイコンタクトをとりながら丁寧に対応してあげることが、わかっているにもかかわらず日々の雑務でおろそかにしてしまいがちなので、私自身の仕事マネジメントをしっかりとしていくことも併せて必要だと感じました。今日は、学校でも家庭でも活かせる自己肯定感のはぐくみ方について学ぶことができました。ありがとうございます。（波照間生子）